

『ニュールンベルグ裁判』

1961年／アメリカ／スタンリー・クレイマー監督作品

若き法曹に是非観て欲しい
ナチスめぐる白熱の軍事法廷

会員 内田 雅敏 (27期)

1961年、社会派監督スタンリー・クレイマーによって作られた米映画。1945年5月8日、ドイツの敗北後、ドイツのニュールンベルグで米・英・仏・ソ四大国により国際軍事法廷（IMT）が開かれ、ゲーリングらナチスの幹部が裁かれ、絞首刑などの判決を受けた。

その後も米軍占領地域で、司法、経済、教育、外交など12の分野別でナチスの関係者が裁かれた。これをニュールンベルグ継続裁判と呼ぶが、本映画はこのうち司法の分野の裁判を描いたものである。したがって、そこでの被告はナチスの人道に反する法律を適用した元裁判官、検察官らである。

裁判長役にスペンサー・トレイシー、検察官役にリチャード・ウィドマーク、弁護人役にマクシミリアン・シェル、そして理性を持ちながらもナチスに協力してしまった元裁判官ヤニング被告役にバート・ランカスター、その他、マレーネ・デートリッヒ、モンゴメリー・クリフトなど超豪華な俳優陣だ。

検察官が冒頭陳述で「彼らはより罪が深い。それは彼らがヒトラー台頭以前に成人だったからです。幼くしてナチスの教育によって洗脳されたのではなく、教育のある大人として正義を尊重すべき立場にありながら、第三帝国の理念を奉じたのです」と激しく告発する。

裁判は、1935年に制定された「ニュールンベルグ法」——ユダヤ人がアーリア人種と性的関係を持った場合に処罰される——違反で処刑されたユダヤ人裁判などの責任をめぐって展開されていく。件のユダヤ人に死刑判決を下した裁判長はヤニングであった。途中強制収容所解放の際の実写フィルムなども挿入され、ナチスの非人道的行為が強烈に映し出される。

弁護活動に熱心のあまり、ユダヤ人と関係したと疑われた女性を執拗に追及する弁護人の姿に、それまで

沈黙を守っていたヤニングが、突然立ち上がって「やめろ、また同じことをくり返すのか」と叫ぶ。そして彼は「我々はあのユダヤ人達の殺戮を知らなかったというのか。それは知りたくなかったのではないか」等々とドイツの犯した犯罪、そして自らの責任について語り始める。「自分が担当し、死刑判決を下したあの裁判は、法廷に入る前にすでに判決は決まっていた」と。

弁護人は、ナチスの行為を問うなら、1939年の独ソ不可侵条約、ヒトラーを祝福したヴァチカン、ドイツの再軍備を助け、大もうけをした米国の軍需産業に責任はないのかと果敢な弁論を展開する。

折りしも進行する冷戦の進行も裁判に影響をしかねない。三人の判事による合議は激論の末、2対1で判決は有罪、いずれの被告も終身刑。判決理由は言う。

もしこのナチスの蛮行が一部の性格異常者達によって引き起こされたものならば、それは天災と同じようなものと考えることができる。しかし、深刻なことは、ヤニングのようなワイマール憲法の制定に関与した理性的な人物も国家の危急時にはナチスの蛮行に協力してしまうという事実であると説く。裁判終了後、米国に戻る判事に面会を求めた獄中のヤニングは判事に判決を支持すると語る。そして、言おうか言うまいか躊躇しながら「しかし、あの600万人ものユダヤ人殺害については、自分は本当に知らなかった。それだけは分かって欲しい」と哀願する。

すかさず判事が言う「ヤニング君、最初に無実の者を処刑したとき運命は決した」と。凍りつくヤニングの顔、映画はそこで終る。

3時間の長さを感じさせない検察官と弁護人の激しいやり取りは、尋問技術の修得にも役立つのではないかな。若き法曹に是非観て欲しい映画だ。



『ニュールンベルグ裁判』
リクエスト・ライブラリー 第1弾 vol.5
DVD 発売中 ¥3,990 (税込)
20世紀フォックス ホーム エンターテイメント ジャパン
©2009 Metro-Goldwyn-Mayer Studios Inc. All Rights Reserved.
Distributed by Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC.